

学校教育計画

四日市市立下野小学校

I 本校の学校教育方針

自らの将来展望を切り拓いていく能力を身につけ、21世紀を主体的に生きることが出来る児童の育成をめざし、教職員の資質向上と意識改革に努め、社会の変化に対応した学校教育を推進する。

1 学校づくりビジョンの明確化と家庭、地域との連携強化

学校経営につながる学校づくりビジョンを明確にし、児童に立脚した教育の充実を一層進めるとともに、家庭、地域との連携を図り、信頼に応える学校づくりを進める。

2 キャリア教育を基盤に据えた学校づくりの推進

子ども自らが育つことを願い、生活や教育活動のさまざまな役割を担う場面で対応する力を伸ばす教育を推進する。

3 個に応じた特別支援教育の推進と浸透

児童や保護者の教育的ニーズに応じた支援や必要な指導のあり方を工夫し、すべての子どもに正しい理解と望ましいかわりを深める指導を充実させる。

II 学校教育目標

《学校教育目標》

「今を考え 未来をえがく子ども」

～自らをともに生きる中で考え、よりよく生きようとする子の育成～

〔めざす子どもの姿〕

- ともに生きることを思う子
- 知ること 学ぶこと 考えることを楽しむ子
- 健康を大切にする子

〔めざす学校の姿〕

- いきいきと生活し 笑顔いっぱいの学校
- 子どものよさを伸ばす学校
- 互いのちがいを認め合い 高めあえる学校



III 学校を取り巻く環境

本校がある下野地区は、四日市市の北西部に位置し、北は員弁郡東員町と接している。本校の周りには田園が広がり、農村的な気風を残した北地域と、学校の近くに流れる朝明川より南側には50年来の団地や新興団地が存在している南地域がある。

そのような環境のなか、学校に対しては協力的で「地域の学校」という意識が強い。生活環境からくる考え方のちがいはあるが、地域活動も共存の方向で行われており、学校のもつ役割は重要だと思われる。

子どもたちは素直な感性を持ち、やさしく思いやりのある児童が多いが、気持ちを伝えたり、感じたりすることが苦手な児童が少なくない。

IV 学校教育目標設定の理由と目標を達成するための基本方針

本校の学校教育目標「今を考え 未来をえがく子ども」は、自己をみつめ、自己肯定感を培い、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方や夢を描き、実現しようとする子どもたちの姿を目指したものであると考えられる。

学校を取り巻く環境にも示されたように、生活環境からくる考え方のちがいなどはあるが、地域活動も共存の方向で行われており、地域の人たちに温かく見守られながら、子どもたちは安全に豊かに生活を送っている。しかし、一方では外国籍の児童に対する偏見的な見方や発言は存在しているし、将来の夢や目標を持っている児童が少ないなどの課題もある。今後、本校の児童が学校教育目標に少しでも近づくためには、自己の存在感、自己有用感（注1）を高め、自己を見つめ、周りの人たちとともに社会のかかわりを持ち、たくましく生きる力を育む必要がある。

上記のことを実現するために、「キャリア教育」の視点を据えて、学校教育の活動全般の見直しを行っていきたいと考える。「キャリア教育」で育みたい力として、「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4観点があげられている。これらの能力をよりわかりやすくするために、「かかわる力」「みつめる力」「िकास力」「めざす力」と表現し、この4つの観点から具体的な子どもの姿を描き、自己有用感、生きる力を伸ばすことを目指していきたいと考える。そして、これらの力を育むためには、子ども自身が主体的に学習や活動に取り組む場の設定や内容をきちんと整理する必要がある。何か新たなものを取り入れるということではなく、今まで本校が取り組んできたものに新たな視点を加え、より深まったものにしていく改善を図る必要があると考える。

平成23年度から新学習指導要領が実施され、授業時数の改訂や活用する力の育成がうたわれている。このことを受け、以下のことを特に大事にし、子どもたちの学力向上や生きる力の育成を図っていきたいと考える。

- ① 子どもたちがわからないことを共有し合い、互いに学び合い、求め合っていく授業を目指し、授業改善と教材開発を進めていきたい。
- ② 70時間の総合的な学習の時間の内容の精選と深化を図り、社会とのかかわりや自己とのつながり、自分の将来設計につながる力をつけていきたい。
- ③ キャリアアドバイザーとして、地域の人材、多方面の専門家、学習支援ボランティアの人たちを授業や教育活動に積極的にかかわってもらおう工夫をし、きめ細かな指導とより豊かな教育内容を創り上げていきたい。
- ④ いじめや子どもを取り巻く諸問題に対する実践を拡大し、一人ひとりの児童の内面に迫る指導や取り組みを充実させていきたい。

（注1）**自己有用感**とは、「自分自身のよさを認め、自分を肯定的に受け止めることができる存在感。」と定義付けることができる。自分が所属する集団から、承認・賞賛・感謝・支持などを受けることによって、自己評価を高め、その集団において安定した存在感を得ることができる。